

評価書の物理的・化学的性状の記載例案

<記載例>

I. 評価対象農薬の概要

1. 用途

殺虫剤、殺菌剤、除草剤 etc...

2. 有効成分の一般名

和名：○○○○

英名：●●●● (ISO 名)

3. 化学名

IUPAC

和名：△△△△△△△△△△△△

英名：▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲

CAS (No.xxxxxxxx-xx-x)

和名：▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽

英名：▼▼▼▼▼▼▼▼▼▼▼▼▼▼

4. 分子式

 $C_xH_yN_zO_p$

5. 分子量

...

6. 構造式

7. 物理的・化学的性状 **追加**

融点	: □℃
沸点	: □℃
密度	: □ g/cm ³ (■℃)
蒸気圧	: □ Pa (■℃)
外観(色調及び形状)、臭気	: ○色結晶、●臭
水溶解度	: □ mg/L (■℃)
オクタノール/水分配係数	: log P _{ow} = □ (■℃)
解離定数	: pKa = □ (■℃)

8. 開発の経緯

・・・・・・・・・・。

【與語専門参考人より】

情報提供です。殺菌剤、殺虫剤、除草剤にはそれぞれ RAC code があり、作用機構がコードで分類されています。食品安全委員会におけるリスク評価には直接関係ないこと、また同委員会では幅広い分野の農薬を扱うこと、さらに植物成長調整剤には同様のコードがないこと等から、評価書の「8.開発の経緯」に記載するのは難しいかもしれませんが、とても分かりやすいです。